

Lend a Hand  
手を貸そう国際ロータリー第2750地区多摩東グループ  
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

## Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2004-3-10 第644回例会 NO. 14-33 2004-3-24 発行

◎司会 SAA委員会 根本 泰守

◎点鐘 会長 大松 誠二

◎ロータリーソング「それでこそロータリー」  
ソングリーダー 菊池 敏

◎お客様紹介 会長 大松 誠二

- ・多摩中央警察署 生活安全課長 大島 勇 様
- ・岡山西南RC 椎原 裕二 様

◎会務報告 会長 大松 誠二

- ・3月10日(水)、臨時理事会を開催し、次の決議をいたしましたので報告し、注意を喚起します。

## 臨時理事会決議

正規に入会を認められた候補者に対して、ルールを無視した行為により候補者が入会辞退する事態に至りました。

(経過は次の通りです。)

会員による推薦があり、職業分類・会員選考委員会の審査を経て、理事会において承認された。例会での発表後、1週間内の異議はなかった。

正規の手続を経た後、本人の入会意思を確認した後、「ロータリアンより」として(無署名)、職業分類についての誤解と会員の大半が入会に反対しているという事実と反する理由で入会辞退を強制する内容の文書が本人に送られた。

- ・本人からクラブの混乱は本意でないとして入会は遠慮したいとの意思が伝えられた。

(理事会から会員へのアピール)

今回の件に関し、クラブ協議会の開催を求める意見もありました。ルールを無視したこのような行為は誠に残念ですが、理事会は私達ロータリアンとしての、又、クラブ全体の問題として考え、反省

を求めていると考えています。公平で真実に基づいたロータリークラブのために二度と起こらないよう理事会としての心からのお願いです。

- ・多摩青年会議所OBの方々に例会への招待を呼掛け、ロータリーへの理解とクラブ会員の増強をはかることを決定しました。

◎幹事報告 幹事 藤本 吉文

- ・来週3月17日の例会は、定款による休会です。次回は、3月24日になりますのでご注意ください。
- ・以下の資料を回覧いたします。
  - 花見親睦旅行出欠表
  - 東京多摩RC、東京稲城RC週報
- ・東京多摩RCの例会変更、メイクアップは事務局に確認して下さい。
- ・第5回国際囲碁大会のお知らせと申込書がきましたので回覧します。
- ・サルガド写真集の貸し出しを受けている方、事務局までお返し下さい。

◎次年度会務報告 次年度会長 菊池 敏

- ・3月4日(木)、次年度第1回会長幹事会に出席いたしました。詳しくは追ってお知らせします。
- ・本日例会後、事務局にて被選理事会を開催しますので、役員理事の方はご出席下さい。

## 【委員会報告】

◎出席報告 出席委員会 杉田 誠

- ・会員総数 43名
- ・出席義務者数 42名(出席免除者2名)
- ・出席者数 32名
- ・欠席者数 10名(事前MU0名)
- ・出席率 76.19%

## 東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号  
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491  
E-mail tamagr@cello.ocn.ne.jp

【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階

【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30

【会長】大松誠二 【幹事】藤本吉文

【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝

【委員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澁川昇・高木淳光・由井真司・小田泰機

- ・欠席者：阿部 華歌、藤原 正範、平野 行廣、  
北村 幸彦、小林 正、正房 正孝、  
菅井 信夫、澄川 昇、高木 淳光、  
高野 範城
- ・補填MU：なし

2/26-27 最終訂正出席率 61.90%

◎ニコニコBOX 親睦活動委員会 小泉 博

- 大松 誠二 多摩中央警察署 大島課長さんようこそ。卓話をよろしく。
- 藤本 吉文 大島課長様お世話になります。卓話楽しみにしています。よろしくお願ひ致します。
- 伊藤 英也 大島課長、お手柔らかにお願いします。
- 関岡 俊二 多摩中央警察署大島課長様、卓話楽しみにしております。
- 村上 久 多摩中央警察署大島様、卓話楽しみにしております。
- 赤尾 恭雄 多摩中央警察署大島課長 ようこそ。卓話をよろしくお願ひ致します。
- 萩生田政由 大島課長さん、卓話を楽しみにしています。
- 津守 弘範 大島課長様、卓話楽しみにしております。
- 足立潤三郎 大島課長、卓話よろしくお願ひ致します。
- 遠藤 二郎 大島課長、卓話よろしくお願ひ致します。
- 小泉 博 お客様ようこそ。卓話よろしく。楽しみにしております。多摩市の安全お願ひします。

本日の合計¥15,000 (累計¥666,561)

◎国際奉仕委員会 委員長 吉沢 洋景

本日例会後、5月の国際大会について要項を発表いたしますので、関係者の方は例会場前のテーブルにご参集下さい。

◎親睦活動委員会 委員長 伊澤ケイ子

4月11・12日の移動例会・親睦旅行の参加者は、現在約27名程度が見込まれています。まだお申し込みでない方も奮ってご参加下さい。桜前線の移動がやや早いようですが、その辺を踏まえてコースの修正も検討いたします。

◎卓話 「市民が主体となった  
安全安心街づくり運動の目指す方向について」

(要旨)

多摩中央警察署生活安全課長 大島 勇 様



過去10年間に  
おける我が国の治安状況は、犯罪の増加に反比例するかのよう  
に検挙率が低下しており、まさに「検挙が  
発生に追いつかない」という悪循環

に陥っている。特にここ数年間における、毎年15万単位  
の犯罪増加と急激な検挙率低下は目を覆うものがあり、  
社会に深刻な影響を及ぼすこと必至の情勢である。署管内  
に於いても青少年犯罪の増加を含めて例外ではない。

その原因の一つに、「警察官の絶対的不足」の問題があり、  
かつての犯罪都市ニューヨークは「警察官1万人大増員計画」  
によって見違えるように治安の回復が実現したが、我が国  
においては昨今の財政状況から増員問題の解決を困難に  
している。

このような状況を踏まえ、国民の間には「もはや警察  
だけに頼る時代は終わった。」「自分達の街は自分達で守  
る。」との気運が高まっている。

限りある警察力を効率的に活用していただくため、市民  
の情報提供は欠かせない。

◎点鐘 会長 大松 誠二

(例会担当：赤尾 恭雄)

ポール・ハリスを我々の心に！ Part 36

祖母の葬儀のニュースが来るのを待ったり、子供の頃の  
情景や出来事を思い出したりして、悲しい気持ちで大学  
の勉強を続けていると、ポールは珍しくホームシックに  
掛かった。そして、故郷の谷間の落ち着いた、整然とし  
た家庭や祖母の細やかな愛情などが懐かしくなったり、  
バーモントの山々を夢に見たりした。

1年前、バーモントのウォリングフォード村を去ってアイ  
オワに行く途中、シカゴに1週間立ち寄った。雑踏極まり  
ない西部の都会に潜む不安と不道徳から醸し出される、不  
思議な魅力に取り付かれた。故郷の谷間とは全然違っ  
ていたが、ポールは何か活気に溢れたものを感じ取った。  
ここは正に人が生きることを学ぶ所だ。世の中には人が  
集まってくる場所があるが、何が人を引きつけるのだら  
う。人間の生活に影響を与える動機とは何だろう。なぜ  
善人と悪人がいるのだらう。なぜ犠牲者がいるのだらう。  
彼等が報いられるとすれば、どん

な報いを受けるのだろう。なぜ体力や精神力、道徳心を無駄にする人がいるのだろう。祖父の教訓の中には、何かためになるものがあるのだろうか。・・・それとも、祖父はお人好しの時代遅れだったのだろうか。ポールの思いは様々に駆けめぐった。

アイオワでは最初の1年間、デモインにあるセントジョン、スティーブソン、ウィズナンド弁護士事務所では法律を勉強した。夏にはオカボジャ湖で魚釣りなどをして戸外生活を好み、特にすることがない時には法律の勉強をした。

秋にはアイオワ市にある州立大学の法学部に入学して、1891年の6月に卒業した。アイオワ大学では、これまでとは全く異なった環境に晒された。学生達は、パーモント大学やプリンストン大学の学生達より年を取っていた。しかも大部分はアイオワの農家の出身で、大学の学費を得るために、学校の先生をしている人達が沢山いた。遊び盛りを過ぎた真面目な学生が大半を占めていた。大学の雰囲気は健康的で、法学部の学生達は自分達の部屋でクイズを出し合ったり、法律の理論と実際について討論したりして夜を過ごしていた。

ポールは、いろいろな学校に行って何を学んだか自問してみたくなった。果たして、祖父の恩に報いたり期待に応えることができたのだろうか。学校に行ったことは有意義だったのだろうか。いろいろと考えさせられた。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

### ポール・ハリスを我々の心に！ Part 37



ポールは、アイオワ大学を卒業する頃になって、特に興味を覚えたことがあった。それは人間の生きざまを知ることだった。先ず、アメリカ人の生きざまを知り、ついで諸外国の人々の生きざまを知りたくなった。そんなことがうまく成功するだろうか、心の中では馬鹿げた冒険だと思った。それは、世間の常識を破るよ

うな重大なことだとも思った。ポールの同級生達は皆、健全な考えの持ち主で分別があり、卒業後60日以内に好きな場所で法律事務所を開くことが目標だった。

このような時、ポールの信念を支えてくれる出来事があった。大学の卒業式で一人の弁護士が講演をした。彼は10年前にアイオワ大学を卒業して弁護士事務所を開いていたが、次のようなことを話してくれた。「卒業生の皆さん、先ず手始めに、何処か小さな町へ行って5年間ぶらぶら遊んでから、好きな都会に行って弁護士を開業

するのも面白いじゃありませんか」

このアドバイスを聞いて、ポールの心の蟠りはすっかり消えた。そして、小さな町だけではなく、行けば世界中何処までも行って、ぶらぶら遊んで5年間過ごすことにした。これは素晴らしい冒険だと思った。勝手気儘なことをやってからシカゴのような大都会に居を構え、弁護士の看板を出して頑張ろうと決心した。そこでポールは放浪の旅に出たが、一度たりとも後戻りはしなかった。アメリカ人や外国人の生きざまを研究しようという好奇心を原動力として、この旅をやり抜こうと心に決めていた。

人種によってどうして生活の仕方が違うのだろう。大学の図書館で、イギリス、フランス、ドイツ、ロシアやスカンジナビアの作家の小説を沢山読んでお陰で、ポールの好奇心は燃えていた。外国に行かなければ、人間の生きざまを学ぼうとする希望は叶えられないと固く思っていた。

この目的を達するためには、肉体労働であれ、頭脳労働であれ、仕事を厭うことはできなかった。山の中を何百マイルも歩いたり、大都会を放浪したり、或は青天井の下で野宿をしたり、安宿に泊ったり、腹が空いてひもじい思いをしたこともあった。故郷の谷間のことや、祖父母の家の楽しい思い出が何度も頭に浮かんだ。一番思い出したのは、なぜか少年時代には関心の薄かった祖母の手作りのリス・ドーナツだった。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

### 『ロータリー知識』 入門編 「ロータリーの理想と友愛」 米山梅吉

#### 「ロータリアンのつとめ」

およそロータリーの会員は身分の高低と貧富の別なく、人種にかかわらず、宗教家たるを問わず、政治家たるを論ぜず、寛大・忍耐・正義・親切・友誼・親愛をこのわれわれの知る最善の小世界の住人に、好意を伝える使節として終始するものである。

1905年シカゴ市において物質上および社会上の風紀刷新のため闘った諸勢力は、醜行・泥酔・腐敗に対して勇敢な抗争をしていた。実業は階級意識を抱くに至り、また実業の掠奪同然になり得ないことに気づきはじめていた。一般の人々も公共のためという自尊心に目覚めてきて、この自尊心が社会奉仕の先駆けとなったのである。ロータリーは常にその先得権を感謝せざるを得ない。これがなければ成功を期することができなかつただろうし、

これがあってこそ万事が成就した。

### 「ロータリーとは」

ロータリーはただ心の状態に休止するものではない。奉仕は実行にある。会員たるものはその日常の職務、社交ならびに公共的接触から他人のために計ろうとする本分と自己を利そうとする懇望との衝突を調和するために発奮努力すべきである。自己にさきだつて奉仕を理念とするのは、そのなすべき正しいことだからである。よく奉仕すれば自己に益することも大である。

一米山梅吉氏による訳書から一

(コーナー担当：遠藤二郎)

### ★「ロータリーの友」拾い読みコーナー★

3月号 『ROTARY REPORT』より

#### ブライダル委員会 浦和北東RC 関亦 数斗 氏

(第2770地区 埼玉県)

ブライダル委員会は、国内唯一の委員会で、恐らく世界でも例がないと思われまふ。要するに全世界に誇れる委員会活動です。田中徳兵衛ガバナー年度(1985～86年度)に地区委員会として創設され、以後18年間継続しています。



今年も1組のカップルが誕生

現在、約300人の登録者があり、今までに86組のカップルが誕生。本年度も1組の成婚となりました。

毎月第2土曜日午後1～3時、ブライダル面接コーナーを

浦和ロイヤルパインズホテル2階で開催し、登録者同士のお見合いを実施。また、年2回、10月と4月に「友愛の広場」を開催しております。

本年度は10月11日に60人の登録者が参加し、11人のコーディネーターが雰囲気盛り上げてくれました。委員長の「夢を大事に手の届く夢を共有しよう」のターゲットのもと、各クラブへ登録のお願いにもお伺いしました。

先日、田村亮夫ガバナーが、あるクラブへ公式訪問に行ったところ、会員のご子息が同委員会の紹介でめでたく婚約が成立し、例会の中でガバナーへ感謝文を読み上げたそうです。このときガバナーは感激され涙されたとのこと。

2年前に登録した二人が、手弁当で奉仕されたコーデ

ィネーターのお世話で結ばれたわけです。多くの人の愛情と奉仕により、幸せをつかむことができました。多くの人の手を借りて、これからも、幸せなカップルのお世話をさせていただきます。

是非面接コーナーにもお立ち寄り下さい。詳細は、当地区ホームページWWW. Ri2770. com 募集コーナーのロータリーブライダルをお開き下さい。Lend a Handです。

3月号 《言いたい聞きたい》より

### 「2004年規定審議会に期待できるか」

当クラブ会員 赤尾 恭雄

このままでは、やがてロータリーが、ロータリーでなくなる日が来る。

前回、2001年規定審議会は、一業一会員制の原則を放棄し、一業複数会員制をとる国際ロータリー(RI)理事会の制定案を承認。目的のためには手段を選ばない、極めてご都合主義なことであり、ロータリーの単年度制も、ここまできるとロータリーの歴史を冒瀆することである。

ロータリーの「職業奉仕」が看板ならば、「一業一会員制」はロータリーの金字塔である。ピサの斜塔ではないが、今、ロータリーの金字塔は傾きつつある。傾いても、ピサの斜塔は絵になるが、傾いたロータリーの金字塔は、絵にならないどころか、恥さらしである。

2004年規定審議会は、本年度末6月14日から18日までシカゴで開催されるが、立法案は、既に昨年6月に締切られている。傾いたロータリーの金字塔を復元するような制定案は、存在するのだろうか。

各地区の規定審議会代表委員も、一昨年選任されているはずであり、早急に地区の規定審議会活動を活発化し、クラブおよびその会員に立法案(特に制定案)の内容を説明して、意識を喚起すべきである。規定審議会との距離を意識的に短縮し、クラブおよび会員の立法案に対する関心を高めるには、今のところそれ以外ない。

理想的には、地区またはゾーンに、第一次(または予備)規定審議会を設置することにより、恒常的に、クラブおよびその会員の意識改革を求めなければならない。

「ロータリーが変わらなければならない」とは、こういうことである。

来る規定審議会の結果は、ロータリーの命運を左右する。ロータリーが、あくまでロータリーであり続けるための良識を期待する。

ロータリー諸先輩のご意見を、請う。

(コーナー担当：正房 正孝・高木 淳光)